

平成 21 年度総務文教常任委員会行政視察報告書

平成 22 年 1 月 22 日

日 時 平成 21 年 11 月 11 日（水）～13 日（金）

視察先及び視察津項目

愛媛県東温市

東温市総合計画について

愛媛県西予市

「西予の色」写生コンクールについて

視察者一行 9 名

委 員 中野元栄委員長 森山一理副委員長 亀山重光委員

安田憲喜委員 安中弘委員 茂岡明与司委員 樋口博務委員

当 局 小林多聞総務課参事

随 行 石井信一議会事務局次長

東温市総合計画について

東温市の位置

愛媛県の中央部に広がる松山平野の東部にあって、県都松山市から東に 12 km に位置する。

市政のあゆみ

平成 16 年 9 月 21 日に生活圏を同じくする 2 町が合併し、東温市となり現在に至る。

東温市総合計画策定作業の経過

平成 17 年 7 月 14 日に第 1 回総合計画策定委員会を開催し、平成 18 年 6 月 20 日に市議会において総合計画基本構想が議決され、平成 18 年 7 月 28 日に臨時議会全員協議会において総合計画基本計画の概要説明が行われた。

人口

平成 21 年 10 月 1 日現在の住民基本台帳による総人口は、34,744 人。

総合計画の目標は 37,000 人。

1 新たなまちづくりへの市民の意識と期待（アンケート調査）

（1）市の各機関に対する満足度と重要度

市の各環境（6 分野 36 項目を設定）について市民がどの程度満足しているかをアンケート調査した結果、重要度の最も高い項目は、「自然環境の豊かさ」であった。

（2）今後のまちづくりの特色

今後のまちづくりにあたって、本市をどのような特色のあるまちにすべきかについて、12 の選択肢から 2 つまで選んでもらった結果、「健康・福祉の町」、「環境

先進のまち」が2大方向で、「健康福祉」と「環境」を重視したまちづくりに市民の関心が集まっていることがうかがえた。

新たなまちづくりの3つの原則

- 「環境と健康」の重視
- 「東温らしさ」の創造と発信
- 「協働体制と自立心」の強化

2015 東温市の将来像

いのち輝き緑あふれる東温市

総合計画の役割

1 東温市総合計画

「あなたが創るとおん未来プラン」は、『地方自治法第2条第4項において基本構想の策定が義務付けられている自治体の最上位計画であり、すべての分野における行政活動の基本となるもの』である。こうした法律に基づく市の最上位計画としての位置づけを踏まえるとともに、合併時に策定した「新市建設計画」を基本に、東温市総合計画を作成する。

2 総合計画の構成と期間

基本構想

基本構想は、市の特性や市民の意識と期待、時代変化の方向などを総合的に勘案し、目指す将来像と、それを実現するための政策目標及び政策の大綱、重点施策等を示したもの。

基本計画

基本計画は、基本構想に基づき、今後推進すべき主要施策を行政の各分野にわたって体系的に示したもの。

計画期間は、基本構想、基本計画ともに平成18年から平成27年度までの10年間。

所感

総合計画は必要だと思います。計画期間は、10年間としていますが、急速に変化する政治・経済、社会情勢に的確かつ柔軟に対応していくため毎年見直しを行う必要があること、又財源の確保や方向性のむずかしさを感じました。

西予市

西予市の概要

西予市は愛媛県の南西部に位置し、平成16年4月に5町が合併してできた市で、人口は、17年国調で44,948人。

市民の一人ひとりが豊かさを実感できるように「未来へ輝くゆめ、ひと、ふれあい西予」を合言葉に、特色を生かしたまちづくりを進めている。

「西予の色」写生コンクールについて

総事業費

2,749,847 円のうち、県からの補助金 884,000 円

事業実施期間（3ヶ年実施）

平成16年度～平成18年度

事業の目的

西予市は、平成16年4月1日に、5町が合併して誕生した。

基本理念は、「自然と文化と人が輝く交流のまち」。

合併を記念し、新市西予市を広くアピールする。また、同様のコンクールを開催しているフランスの「ブルターニュの色」協会を通じて、フランス人絵画愛好家の参加を得て国際文化交流も図る。

事業の内容

参加者が事前に申し込み、当日各会場で受付後、1日で絵を書き上げる。

事業のコーディネーターにフランス人画家5名を招待する。

実施状況（実績）

年度	会場数	部門	開催日	参加者数	事業規模額（千円）
16	5	2	2	130名	4,349
17	15	2	1	119名	2,013
18	4	4	2	169名	1,693

H16年度は、合併補助金を充当（4,158千円）17年度以降は一般財源

事業の成果

- ①それぞれの地域の地域文化や魅力に触れ、改めて各地域の個性を認識して一体感を深める良い機会を市民に提供できた。
- ②協会を通じたフランス人絵画愛好家を招待することなどして、話題性を持たせ新市の魅力を市内外に情報を提供できた、など

事業の反省

フランス人絵画愛好家の参加が、この写生コンクールの魅力であるが招へいするための経費（委託料）が高額であり、事業に見合った成果（参加者数）が得られるか費用対効果の検討が必要など。

事業廃止の背景

事務事業評価をおこない廃止の方向が示された。合併記念事業として開始した事業であり、合併後3年(3回)経過したことから区切りとして市としての事業を終了する。しかし、この事業は1日で絵をかきあげるといふ全国でもまれな事業であること、平成18年度は参加者も伸びていることから、事業主体を文化協会に移し独自開催とする、市は必要経費を補助金として支出する。文化協会で開催できない場合は中止とする。

現在

文化協会では実施は無理、事業は廃止の状態。

所感

参加者が年々増加していたのに、事業は廃止の状態にあるのは残念に感じましたが、新たに「せいよ再発見、地域づくりグランプリ」や「西予市誇れる地域づくり事業」等の新たな事業を、21年度から3ヵ年計画で取り組まれ西予市として更なる一体感の醸成や、地域の魅力や特色を引き出し、地域力をさらに高める取り組みを行っている事に関心をしました。

明治2年に建築され明治5年に学制が公布され「開明学校」として機能し、現在も大切に守られている「開明学校」での授業の再現体験は、教育尊重の精神を感じ、教育の隆盛や新たな文化の発展を感じた授業でした。